



TITLE:

朝鮮干潟地利用論

AUTHOR(S):

三田村, 一郎

CITATION:

三田村, 一郎. 朝鮮干潟地利用論. 經濟論叢 1920, 11(4): 564-574

ISSUE DATE:

1920-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/127704>

RIGHT:

京都市大學經濟學會 經濟論叢

第十卷 第四號

論 說

農業社會主義論(二)……………法學博士 河田 嗣郎

累進課税の弱點に就きて……………法學博士 神戸 正雄

支那古來の限田說……………文學士 小島 祐馬

價值論上のリカアドとマルクス(一)……………經濟學士 堀 經夫

人格主義の立場に於ける經濟と人生の考察(二・完)……………法學士 石川 興二

時事問題

排日問題に就きて……………法學博士 神戸 正雄

我海運政策に對する國民の反省……………法學博士 戸田 海市

雜 錄

三種の「資本論」邦譯……………法學博士 河上 肇

世界戰爭と人口の變動……………法學士 汐見 三郎

朝鮮干瀉地利用論……………經濟學士 三田村 一郎

新著紹介……………法學士 汐見 三郎

朝鮮干潟地利用論

三田村 一・郎

一、緒言

本文は私が昨夏の休暇を利用し、朝鮮銀行の經濟研究生の一人として滿鮮を旅行した結果得たる報告書の一部である。朝鮮は由來農業國であつて農業人口は實に全人口の八割を占めてゐる。其農産物の太宗は米で、我内地への移出高は年の豊凶によつて一定しないが最近數年について見れば百五十萬石乃至二百萬石に上つてゐる。鮮米殊に改良米の品質は内地米に比し大して遜色なく我國民の特有の嗜好に適し、而も將來有利に増收し得る餘地も大であるから、我國

民が米に對する需要を減じない限り、鮮米は現在及び將來に於ける我食料問題の解決上頗る重要な地位を占めるものといはねばならぬ。惟ふに鮮米増收の方法の一は耕地面積の擴張による外延的方法であつて、其二是同一面積から一層多くの收穫をあげる内延的方法であるが朝鮮には畚開墾餘地は干潟地二十萬町歩、荒蕪地三萬町歩あり又地目變更により田(畑)を畚(田)とし得るもの二十萬町歩位はあるから外延的増加の餘地は大である況んや可耕地面積の調査は不完全で、大規模の徹底的調査によれば一層多くの面積を得る蓋然性がある、又一方米種改良、金肥使用、灌漑排水設備等農事改良の餘地も多く内延的方法も重要である。然し内延的増收法が好結果を得んには一つには農民の智識の向上、農業資金の潤澤を必要とするのであるから朝鮮の實狀より觀れば今日に於ては先づ以て外延的増收策を重しとしなければならぬ。然るに干潟地を畚としうるものは扣目に見て二十萬町もあり外延的米産増加法中之が利用は最も有望視せ

1) 大正八年一月總督府農商工部(朝鮮ニ於ケル米産額増加ニ關スル調査)

られてをるから以下朝鮮干潟地利用の價值を吟味し、進んで之が利用策について若干の考察を試みやうと思ふ。

二、朝鮮干潟地利用の價值

朝鮮干潟地の面積は調査の信す可きものなく爲めに正確に之を知る事が出来ないが假に前掲當局の調査に従へば畚となし得る面積は少くとも二十萬町歩を下らない。然し經濟上不利な事情があるならば之が利用は困難であり又望ましくもないのであるから以下少しく此點について研究しやう。先づ自然的條件を見るに朝鮮の干潟地は主として地味肥沃、氣候良好な西南海岸及び河口に多い上に現在はその形狀が大半凹字形であるから二三間乃至五間位の潮切堤防と閘門の設備さへすれば一町歩の田を得る事が出来るのが常態である。

然るに内地の干潟地では十二間から十五間位の堤防を築いて其内に一町歩の田を得るに過ぎない、又人夫の勞賃も高いから此點に於ては朝鮮干潟地の利用の方が遙に有利である。然し

工事費は少くとも収入が乏しければ差引利する所が少なく否却つて損失を蒙る事なしとせぬのであるから更に收支關係について調査する必要がある。當局の大正八年に於ける見込では一町歩當工費は約六百圓であるがこれは最初投資丈で此他に堤防破損に對する改修費等臨時の費用を見積らねばならん、殊に朝鮮では治水植林事業が充分に行はれて居らない結果洪水の慘害著しく従つて堤防破損の危險が大なる事を看逃してはならぬ。朝鮮の現状に於て水稻栽培上特に改良種栽培上の急務は灌漑排水設備を完成する事であるがこれが爲めには更に河川を治むるを要し、河川を治むるには先づ以て森林經營に力を用ゐなければならぬのであるが、之には巨額の經費を要し、短日月に完成を望み難い事情がある以上干拓事業の費用について上述の如き見積を度外する事は出来ない。次に一町歩の干拓畚よりの収入を見るに灌水普通の干拓畚では一二ヶ年撫援のため放置すれば三年目頃から約十石の米收がある事は從來の成績

の示す所である。若し耕種法を改良し金肥を施用すれば將來は一反歩より一石七斗位の收穫を挙げらるゝの事であるが、一方朝鮮に於ては旱害水害が多いからこれら天災による損失をも考慮の中に入れねばならず又生産費及び米價をも考へなければならぬ。然るに見積は本來支出をやゝ大に收入を扣へ目に見積るを安全とするから收穫は假に一町歩十石と見る可きであらう。

又米價も農商務省の調査によれば大正八年の相場で内地米平均生産費石貳拾七圓であるから内地米は先づ石參拾圓を至當とす可く従つて品質がやゝ劣り、土地遠隔のため輸送費を多く要する鮮米の價格は平均石貳拾七圓位に見積るのが妥當であらう。そうすれば一町歩よりの總收入は貳百七拾圓となる、この中から生産費、耕作者の生活費を差引いた殘額で干拓費を償却する事となるのであるから償却の割合をあまり大きく見積るのは當を得ない。生活費及び生産費について是不幸にして信す可き數字を得る事が出来なかつたのであるが群山地方の調査及び實際

家の言によれば生産費及び農民殊に朝鮮農民の生活費は遙に内地のそれよりも低廉で、米一石の生産費拾壹圓乃至拾四五圓即ち内地に比し約半分(尤も金肥を使用せざるものとして)で従つて干拓事業の如きも相當利得をうるゝの事である。然し一方に於て新干拓地方の運輸交通の便否、生活費の漸昇、天災による損失等諸種の事情は干潟地利用上豫め充分に考慮する必要があるであらう。尙干潟利用上特に注意す可きは干拓番は往々鹽害の爲め失敗に終る懼れのある事である。これに對しては技術上種々の豫防法もあるのであるが、結局灌水が潤澤でない以上、低地で鹽水浸入の虞れある箇所では水稻栽培に不適當であるといはねばならぬ。

上述の如き技術上經濟上の諸點について徹底的調査をなし、充分の注意を拂ふに於ては干潟地利用は頗る有望である。以下少しく干潟地利用の効果について述ぶるであらう。

先づ直接の効果をあげんに(1)干拓事業は新に耕地を増加し、所謂眠れる生産力を發動せしめ

るのであるから國富を増進する所以である許りでなく、住民に生計の途を與ふる事となるのであつてかの割込主義によつて舊住民の土地を取上げ又は之を買占めて以て鮮人の怨を買ひ統治上に禍根を残す如き虞がない。(2)朝鮮干潟地は旱害水害の結果たるもの多きかの荒蕪地に比し地味肥沃で、經營も比較的容易なる上に面積も大であるといふ相對的長所を持つてゐるのであるが今假に甘萬町歩を干拓して相當灌漑設備ある畝とせば反當一石の收穫と見て二百萬石を得可く、將來鹽分の漸減、農事改良等によつて生産の増加を期待しうる事は明かである。

次に間接の効果として干潟地の利用によつて漁村衰微の病患を癒する事を得るであらう。蓋し西海岸殊に淺水灣附近の漁民は半農半漁の生活營んでゐるのであるが漁業の收益は以て生計を維持するに足らず、さればとて沿岸の耕地は過少であつて一戸當畝二反歩たらずであるから生活頗る困難であつて徒つて口を糊するが爲めに濫漁の止むなきに至りつゝあると聞いてゐ

るが、これは水産經濟上觀過し難き所なるのみならず、統治の根本策よりいふも民をして生活の安固を得しめる事の必要な事は勿論であるから何等かの方法を以て彼等を救済せねばならぬ。然るに干潟地の開墾が行はれる場合に於ては彼等をしてよく勞働收入を得せしめるのみならず、これらの地方では女子勞働が盛に行はれる風習があるから、干拓地を漁民に分與し男子の出漁中は女子をして農事に當らしめれば勞働經濟上の效果大いに見る可きものがあるであらう。又これによつて彼等の收入が増加し生活が安固となれば濫漁の弊をも防ぎうるので水産經濟上にも好影響を及ぼす事が出来るであらう。

要するに朝鮮の干潟地利用の效果は顯著なものがあり且つ鮮米の最適地たる南鮮地方に於ては近時棉花の有望となるにつれ棉作が盛に行はれて居るのであつて、ためにこれらの地方で米産の増加を望んでも充分の效果を收め難い事情もあるのであるから、此點からいふも干潟地利用は鮮米增收の外延的方法中相對的に一層重要

な地位を占めるものといはねばならぬ。然し有利に鮮米の供給を増加せんがためには交通運輸の便を大にする事を要し、又干拓畚の弱點たる鹽害を防ぎ之が反當收穫を増加し他方旱害、水害を豫防するを必要とするのであつて之が爲めには灌漑排水工事の完備を要し、而もこれが前提として遠大な規模の下に全般的河川整理をなす可く、更に遡つては森林官有官營の原則を徹底せしめて大いに殖林につとめなければならぬ。これ獨り干拓事業のみならず一般に朝鮮農業振興上最も必要な事である。唯これら大事業の完成にはかなりの長年月を要するから其間は干拓事業遂行上潮切堤防の破損、旱害水害天災による損失をも豫め考慮の中に入れる必要があるのであつてそれ丈干潟地利用の價值が若干局限される事を忘れてはならぬ。

三 干潟地利用策

干潟地利用の重要なことは上述の如くであるが、然らば干拓事業は官營民營何れを可とするか、又等しく民營といふも自治團體(例之水利

組合)主義と資本主義的營利企業の何れを擇む可きかにつき朝鮮の實狀より推して若干の考察を試みよう。

先づ朝鮮干潟地利用の實際を見るに主として民營特に資本主義的營利企業によつて行はれてをり、將來も開拓事業は營利會社の手によつて行はれるものが増加せんとする勢ひを示してゐる。これは果して喜ぶ可き現象であらうか。惟ふに營利を目的とする少數資本家或は株式會社が開拓の事に當り従つて亦土地所有者たる場合には勢ひ小作制を採る事となる可く、かくては獨り生産上自作制に比し劣るのみならず亦社會上人智の開發に伴ひ小作問題を惹起し、統治上にも面白からぬ結果を誘致するであらう。然るに總督府編纂の朝鮮事情要覽には人口の八割強を占める朝鮮農民の大部分は小作人として一生を送り而も何らの不平もないと書いてある。惟ふに彼等鮮人が小作に甘んずるは從來の風習の情勢と農民の智識の程度低きと且つ一般生活程度高からず、ために僅の所得を以てして尙ほ生活

に苦しまなかつた事等に歸因するのであらうが今後智識開け民度高まるにつれかゝる状態に甘せぬやうになるであらう、況んや民族問題の紛糾せる朝鮮にて内地資本家の鮮人に對する壓迫が地主的資本主義となつて現はるゝに於ては將來必ずや第二の愛蘭問題を惹起し、結局後日政府が私人より土地を買上げ鮮人をして之を自作又は小作せしめる必要を生ずる事を保し難いのであるから、寧ろ當初から官營開拓をなすか、又は内鮮農民の開拓を獎勵助成するを生産上、社會上及び統治上至當とする。尤も干拓事業は充分の調査を要し又大規模經營を有利とするから、個人たる農民によつて行はれる事は望み難く、農民の自治團體の經營を擇ぶべしとする。以上の外なほ少しく農民の自治團體による開拓と官營とにつき其長短、條件等を考察しやうと思ふ。

先づ干拓開墾官營の長所を明かにせんに

(1) 元來朝鮮に干潟地利用の遅れた原因を探つて見ると事業の見込の立たざる事、設計の困難

な事及び地元との交渉并びに其手續の煩雜な事等に歸着するやうであるが、これらは官營として開拓する場合には比較的容易に之を解決する事が出来る。

(2) 米産増加が干拓の主要目的なる以上迅速確實、大規模に而も計畫的に之を遂行する必要がある。然るに現在の如く單なる獎勵主義を以てしては到底所期の効果を收める事が出来ないものであつて此點より見て官營を擇ぶ可しとする。

かの農民の自治團體による干拓開墾を如何に獎勵するも朝鮮の現状では金利が頗る高く八厘以下のもの殆んど無く、加ふるに農民の智識の程度低く未だ一般に組合の効果を充分了解せざると、自治的訓練の缺如せるために到底之によつて迅速且つ計畫的に開拓の實をあげ得ないのであるから此見地より（理論上自治團體主義を一層勝れりとしつゝも）なほ實行策として現在の朝鮮に於ては寧ろ官營開拓を重んず可きものと考へる。

(3) 開拓事業を民間の事業とする場合には彼等

は自己の利害關係土地許りを眼中に置き他の不利を顧みないといふ弊を生じ易いのであるが、官營とする場合には全般的、永久的生産力の増加を顧慮して之を行ふ事の可能が一層大である。

以上開拓官營の根據の大要を述べたから更に之が限界、短所について一考しやう。官營に於ては特に收支の見込の不確實な不安な地積の利用は嚴に之を禁ず可きものであつて従つてそれ大利用可能地は局限されざるを得ないのであるが、安全地開拓の場合に於ても困難の伴ふものなしとせぬ。

(1) 安全地を官營で開拓した以上干拓畝は之を農民に拂下げるか又は小作せしめる外はないのであるが、官有地小作制を採る場合に於ては政府が地主として、非營利的に活動する事の望ましい事は勿論であるが財政上困難の事情ある可く、又朝鮮の如き民族問題の紛糾せる所では、國家が地主たる地位に立つ事は將來社會上、統治上好ましからぬ結果を齎らす虞が大である。

更に拂下げの場合に於ては之が方法に充分の注意を拂はなければ土地授機者流の乗する所となり米産増加自作農養成等の目的を達する事が出来んのみならず却つて幾多の弊害を醸す事となるであらう。

(2) 朝鮮の財政は名は獨立なるも其實なく、之を將來に察するも當分其収入は以て經費を支辨するに足らない。かくの如き財政難は干拓官營の實行を困難ならしめる一の有力な原因である。又假に官營によつて干拓し、小作制を採りたる場合には内地米價の激變に伴ふ鮮米價格の變動のため地主たる政府の収入は不安となり、他方地代が米納する時は米の收納、保管、販賣等に付いても、少からぬ經費を要するであらう。更に年賦拂下げにより干拓畝を處分せる場合を見るに米價の變動、水害旱害等の天災の爲め政府は所期の年收を得る事が出来ない場合もあり得る所であり、又干拓畝の收穫が初の中は一石内外であるから耕作者の生活費を控除せば開拓費償却にあてられる部分は割合少ないもの

と見なければならぬ。

開拓官營には右の如き困難が伴ふのであるが
第一の困難に對しては干拓番は之を拂下げ以て
自作農の養成に努むる事とし、之が爲めには充
分に拂下方法に注意し、土地定額拂下(一)長期年
賦償還(二)各拂下面積を相當大きく限定する事(三)
更に土地改良の爲め勞力資本を放下した事明と
なるに及んで所有權を有せしめる事等の方法に
より投機者流の跋扈を防ぐ事を努めなければならぬ。
尙ほ中小農民は資力乏しく且つ朝鮮農民の智識發達
の未だ顯著ならざるが爲め、奸商、投機者流の甘言に迷は
されて土地を賣り遂には浮浪の民と化して統治上に種々の障
碍を及ぼし生産上の目的をも達し難い虞があるから一方に
中小農金融機關たる金融組合を普及せしめ、資金の融通に便
すると共に土地賣却の止むなきものあらば金融組合又は其
所在地公共團體が之を買ひ取り更に適宜の自作農に賣却する
如き方法により奸商等の乗ずる隙なからしめると同時に農民
の困窮を救ひ他方土地の自由處分に對して

朝鮮の事情を考慮し適切なる制限、條件を附する必要があるであらう。

次に干拓官營に伴ふ第二の困難はかなり有力であつて從來當局が内地大資本家、株式會社等による開拓の奨励に力を用ひ官營の實施を躊躇して來たのも亦此理由に基くものがある。然しながら開拓事業の出費は一方我國民生活上の重要問題たる食糧問題解決上必要なばかりでなく他方之によつて國富を開發し朝鮮の民度を高める結果となり、社會上統治上も之が官營を可とする事情ある以上、單に財政困難の理由の下に之らの出費を惜んではならない。然らば之が經費に對する收入を何處に求めんとするか、惟ふに朝鮮財政の實際上經費膨脹の勢は到底之を否定し得ず、一方收入の方では最近の印紙税による印紙收入の増加、登録税の進展及び煙草、酒税等や、增收上有望のものがあるが之のみを以ては不充分であり、さりとて此際租税を増加する事は統治政策上好しからぬ事情もあるのであるから、現在及び近き將來に實現の不可能な財

3) Wakefield, A view of the Art of Colonization pp. 359-361

山本博士、經濟論叢 10卷2號參照、

政獨立の各を棄て、補充金復活の途を擇はねばならんであらう。而してなほ足らざる所は事業公債によるべきである。

之を要するに開拓官營には困難の伴ふものがあるけれども、それは絶對的に避け難いものではなく、他方こは幾多の長所を持つ所であるから朝鮮の現状より見て擇ぶ可きものと考へる。尤も官營の場合には特に收支の見込の確實な而も大面積の地積を利用す可きもので従つて其利用し得る面積はそれ丈局限される事を忘れてはならぬ。

次に自治團體による開拓について見るに組合によるものは農民に自治的訓練を與へ、協同の氣風を養はしめる許りでなく、亦官營の場合の如く開拓後該土地を拂下げる面倒もなく、國有地小作制の如く國家が地主の地位に立ち小作問題を惹起し統治上困難を生ずるやうな虞もないから理論上は官營によるよりも一層適當と考へる。唯前述の如く朝鮮の現状に於ては農民の智識の發達著しからず、加ふるに農業資金の金利高きため、特別の調査を要し大規模經營を有利

とする干拓事業の組合的經營が實際にあまり行はれないので従つて官營の必要があるのであるが、同時に自治團體の干拓經營を獎勵する事は望ましく、否將來は最も適切緊要となるであらう。而してこれがためには一方農學校又は講習會等を盛にして朝鮮農民の智識を開發し、他方農業資金を潤澤にし一層低利の融通をなす事が必要である。以下之に關聯して私が旅行中得た朝鮮農業金融についての感想の一二を述べやう

(1) 殖産銀行に於ては附屬的業務として商業資金融通の任にも當つてをるが之は朝鮮に於て商業銀行の不足してをる爲めで止むを得ない。然し商業資金は其性質上農業信用と異り比較的短期で又資金回轉の度數も遙に大である。従つて同一銀行がかゝる本質的に異なる兩種信用を取扱ふ時には勢ひ利益の大なる商業信用が主となり農業資金の融通といふ當該銀行の本務が忽にせられる虞がありはしないか。將來商業銀行の増加と共に殖産銀行は専ら農業信用機關として其責任を盡し商業信用に關する業務は當該銀行

から分離する可きものである。

(2) 朝鮮に於ては民智未だ低く銀行利用も充分に行はれない上に多年の因習により金貸業者から三割又は其以上の高利で借金してゐるものが非常に多い。之を救ふが爲めには民智開發の要あるは勿論であるが同時に下層金融機關を發達せしめる事が肝要である。此意味に於て近來金融組合の増設は喜ぶ可き現象であるが尙ほ此他に從來朝鮮に行はるゝ契を利用して之を産業組合的に發達せしめるもよからう。

(3) 次に東拓金融部と殖産銀行との關係に對し希望を述べんに資本供給の不足を補ふ上よりいふも又本來事業を主とす可き東拓の性質より見ても東拓金融部で成る可く低利に内地又は外國から大資本を移輸入し殖産銀行に對し資金を供給するやうな仕組にする事が必要である。其他資金不足に對する方策としては殖産銀行が興業銀行の手を経て資金を得るか或は大藏省預金部より之を得るの途を求める等の方法もあらう。

以上開拓自治團體經營の長短及び對策につき

要點のみを述べたが更に之が實行上注意す可きは自治團體は其本質上安全で投機的分子の少ない地域を擇ぶ可き事であつて、而も此爲めには充分の調査、設計を必要とするから政府はこれらの點につき種々の便宜を與へ又補助をなすと同時に他方土地賣却の際は地主的資本家に賣る事なく必ず自作の目的の爲めにする事等適宜の條件を附す可きである。

開拓事業の官營又は自治團體經營の擇む可き事は上述の如くであるが之が開拓適地は一定の限度がある、而して殘餘の投機的地積については食糧増産上又増加人口の生業増加上營利的資本主義による開拓も之を許すを必要とするのであつて、之に對しては政府は種々の便宜と補助とを與へる代りに事業を嚴重に監督し、又暴利を貪はり或は土地を利用せずして地價の騰貴を待ち、或は開拓後の土地分割上不正の行ひなきやう一定條件を附するを至當と考へる。

以上之を要するに朝鮮干潟地利利用策としては生産上のみならず社會政策、統治政策上より見

て朝鮮の現狀に於ては寧ろ官營干拓に重きを置き、干拓地分配策としては農民に長期年賦償還法により干拓地を拂下げて自作せしめるを最も可なりとし、他方官營と相並んで農民の自治團體による干拓事業の經營を獎勵し、將來は寧ろ後者を重要視するを至當とす。唯官營及自治團體經營のみでは資金其他の關係上食糧増産の目的を充分に達する事が出来ないであらうから、官營又は自治團體の開拓適地以外に於て營利的資本家、株式會社の活動の餘地を與へ、之に便宜、補助を與へると同時に適宜の條件を附するを擇ぶ可しと考へる。